

琉球大学学術リポジトリ

1972年の沖縄返還時の有事の際の核持ち込みに関する「密約」に係る調査関連文書No.2

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-15 キーワード (Ja): 核持ち込みに問題, ジョンソン次官 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43897



C

109

米
長

坂
長

相
談

スタイン氏使用内情について

44.10.16 田中

16日スタイン氏は4日招待を受け
 急遽したものの際定方りてつて
 次の通り。
 中絶区交渉について昔日声明は核の非協
 を強ちたけとなつた。日米間には経済
 問題特は繊維の問題あり。中絶区は
 野政内閣は昔日声明の字句は福田
 大蔵大臣の草村の石の2手交した程度で
 ようであらうが、戻便内閣について合意に
 達する必要あり。議会の圧力あり。
 大統領としては日米関係の重要問題
 處理について全体的な整理をたて
 たい。これを核に付し、中絶区交渉は核
 の問題について最終決定を行ふものと考
 へて
 日米間は核交渉に反対である。早とは
 は軍事的立場からかかる態度をとるは当然
 である。日米間は政治的観念よりこの問題
 を考へてあり。自分の経験でも、ワシントン

十月十七日の中絶区交渉の経過

は日米関係の対等な検討を要するとの同感
 核は12日。又大統領自身日米交渉に
 核について特殊事情についての協議を
 行ふ。然し大統領としては上述の通り。
 日米間の諸問題の中心は又全作として
 この際核(特に中絶区)につき一箇の
 目途をついた上で核の處理について決定
 を行ふこととなる。
 (大統領が米側の態度を保留するかの
 点に付き) 最も重要な問題はかう両政府首魁
 に決定してどうのようになるか。但し
 日米間は日米関係の他の諸問題に
 ついての見通しをたてて大統領との進言
 をしなくてはならない。この二
 次官は大統領の信任が厚い。従つて
 この問題は他の諸問題についての見通し
 がつくというのとタイミングにおいて関係性
 がある。(スタインは経済問題について
 12日日本側書面を輸入に打撃して
 いた。これは日米間の核の問題について
 同人のメリットを減らすためとあり

ニカエてこれに気がつくという態度の思われぬ。尚、15日社 軍倉の席上^{有田中}口答者フィン
は核の問題は日下ジョーンズ次官が確めた
まじあつと述べて事務当局とは核の種の
リコネタイコニをなしたかの如く述べた。
(万が一核の種が活し合ふことにならぬ)
(^{有田中}屋知外相訪米時^{有田中}新聞の核の問題
は緊急時持込のラインにて處理せしむとの
記事に掲載した~~こと~~こと(笑)して)ニカハ
政府筋より流したものでなくスピークシユ
と見う。皆口答者で各報の案を述べ
たのはニカハの二つである。又ニカハ共同
声明で處理せしむ、別途の合意を必要とすは
は共同声明の表現如何に依つて甘りぬ。
(尚、スチアは禁射場の問題はNATOと日
とは口答者で考へて見ると述べた。
以上述べたところは一人の在華特使の
経験上の考へ方であり、最近核の問題
はついで(万が一の指令に依つて見ると)行使
の傾向は如何に對し、(万が一)と考へて見ると
と答へ、最近^{有田中}若政府内部の事情は屋知に

GA-6 (1) 在りてのIP系を復す。

外務省